



▲保護者、住民、教育機関、行政が一体となって、子どもたちが健やかに育つ環境づくりを目指します

「町が目指すこれからの中学校教育環境づくり説明懇談会」が町内三地区で開催されました。

只見町小学校改革審議会から「小

学校は速やかに統合すべきである」との答申を受け、町は、中学校併設型小学校で小中一貫校として統合を進めていく方針や、幼小中が連携した切れ目のない教育環境を整備していくことを説明しました。

また、統合の時期について、校舎建設や教育環境整備に必要な期間を考慮し3～4年後を目指すことや、併せて認定こども園の園舎等整備について、朝日小学校校庭を予定地としていることなどを説明しました。

答申書では、「第八次只見町振興計画基本構想及び前期基本計画について適切である」としたうえで、「国・県等の関係機関との連携、住民の理解と協力を得ながら効率的な執行体制と積極的姿勢で実効性のあるものとなるよう推進をはかること」などが示されました。



▲答申書を手渡す小沼一弘会長(左)

教育環境づくり懇談会

子どもたちの将来のために

第八次振興計画について答申

まちづくりの指針を審議

只見町振興計画審議会は、第八次只見町振興計画基本構想及び前期基本計画について、審議の結果を町に答申しました。

答申書では、「第八次只見町振興計

水道使用料等の改訂について答申

物価上昇等の影響を踏まえ審議



▲審議会長を務めた小沼会長(左)

只見町水道事業及び農業集落排水事業運営審議会（以下審議会）は、水道使用料及び農業集落排水施設使用料の改訂について、審議の結果を町に答申しました。

今回の答申は、現行の使用料では、近年の物価上昇や世帯数減少等により、運営経費を賄うことが難しい状況となっており、また将来的な施設の維持費や更新費も確保が必要なことから、使用料の改訂について諮問したことに対するものです。

料金改定案では、水道基本料金は月額500円増、超過料金は1m³あたり50円増、農集排基本料金は月額300円増、超過料金は1m³あたり30円増が示されました。

むし歯のない子

（3歳児健診
12月23日）



た しろ りく と
田代 陸人くん
(只見)

さ づ き りと
鈴木 莉翔くん
(只見)

さいとう きよら
齋藤 聖さん
(只見)

こ にし は な
小西 花奈さん
(黒谷)

災害時における相互応援に関する 定 結 式

福島県 只見町

縁結

福島県 只見町

福島県 只見町

縁結びのまち 只見

福島県 只見町



桑折町、塙町と災害時の相互応援協定を締結

桑折町、塙町と只見町は12月23日に「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。災害発生時には、生活必需品等の物資提供や、職員派遣などの応援を行います。桑折町と塙町は7月に協定を締結しており、今回の只見町との協定により、3町相互協定となります。

協定を結んだ3町の距離が離れており、一度の災害で同時に被災する可能性が低いことから、今回の広域的な連携に繋がりました。広域的に連携し、大規模災害に備えます。3町とも福島県境に位置し、線で結ぶと大きな三角形になります（防災トライアングル）。地震や豪雨などの災害を想定しており、いずれかの町が被災した場合、ほかの2町が災害支援を行います。

また、防災面だけでなく、歴史や文化、自然などの分野での住民交流や、職員研修などを通した交流も行います。

本協定について、渡部勇夫町長が「防災をスタートとして、他分野での相互交流を進めたい」、宮田秀利塙町長が「職員研修など人的交流も行っていきたい」、高橋宣博桑折町長が「災害時における遠隔地からの支援を期待している」とあいさつしました。

また、防災面だけでなく、歴史や文化、自然などの分野での住民交流や、職員研修などを通した交流も行います。

本協定について、渡部勇夫町長が「防災をスタートとして、他分野での相互交流を進めたい」、宮田秀利塙町長が「職員研修など人的交流も行っていきたい」、高橋宣博桑折町長が「災害時における遠隔地からの支援を期待している」とあいさつしました。

桑折町、塙町と只見町は12月23日に「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。災害発生時には、生活必需品等の物資提供や、職員派遣などの応援を行います。桑折町と塙町は7月に協定を締結しており、今回の只見町との協定により、3町相互協定となります。

協定を結んだ3町の距離が離れており、一度の災害で同時に被災する可能性が低いことから、今回の広域的な連携に繋がりました。広域的に連携し、大規模災害に備えます。3町とも福島県境に位置し、線で結ぶと大きな三角形になります（防災トライアングル）。地震や豪雨などの災害を想定しており、いずれかの町が被災した場合、ほかの2町が災害支援を行います。

また、防災面だけでなく、歴史や文化、自然などの分野での住民交流や、職員研修などを通した交流も行います。

本協定について、渡部勇夫町長が「防災をスタートとして、他分野での相互交流を進めたい」、宮田秀利塙町長が「職員研修など人的交流も行っていきたい」、高橋宣博桑折町長が「災害時における遠隔地からの支援を期待している」とあいさつしました。

